



### 市政運営と政策について

齊藤 貢一 議員



**質問** 市長は、市政に対しては、一人一人の意見を聴いて、リーダーシップを持って行動したいとのことだが、それはどのようなリーダーシップのかたちなのか。

**答** 調整型のリーダーシップで、問題解決型、現場主義を貫きたいと思います。

**質問** クラス委員や生徒会

の役員であれば、それもよいと思うが、市民の意見を大事にするという意味では、最大公約数の政策になりがちであり、また、市民への説明責任も常につきまといま。市民福祉にとつて、ベターではなくベストを指し、自ら組織に目標を示した上で、目標達成に向け

た行動を起こさせる力、目標を達成させる力を持つのが、市長としてのリーダーシップだと思っています。その上で、公約として、板倉町との合併推進をあげ、10万都市を目指すとしているが、10万都市のメリットについて伺います。

が合ったが、事実ですか。

**答** 市民の利益を重点に考えていますので、無条件で受け入れること、丸のみをすることはありません。

**答** 一つの考え方として、10万人規模の経済圏では、プラス成長率を確保するものの、10万人未満では、マナス成長になると言われています。

**質問** 板倉町と合併しても9万と少しにしかならず、また、これから少子高齢化により人口は減っていきま

**質問** 公立館林厚生病院の全科目医療体制を目指すところがあるが、この内容や今後の経営体制をどのようにする考えなのか伺います。

**答** まずは外来患者の受け入れ充実を目指し、病院内の優れた科目を伸ばしながら収支の黒字化や経営体力の強化に取り組みます。



### 「5つのチェンジ」とまちづくりについて

篠木 正明 議員



**質問** 市長は選挙で「対話・協働・行動」をスローガンに「5つのチェンジ」を公約にしましたが、「5つのチェンジ」で、どのようなまちを目指すのですか。

**答** 10年後、20年後を見据え、「対話・協働・行動」をモットーに、市民に寄り添い、本気で考え行動し、

します」とありますが、この2つは、予算化され実現しました。今後、どのような展開を考えていますか。

**答** 給食費の無料化や高校生世代の入院以外の無料化も財政を考えながら検討したいと思っています。

**質問** 群馬県地域医療構想では、太田・館林医療圏の病床数を削減する計画です。特に急性期病床は2028床から857床へと半減以下にする計画です。これでは地域医療を守れない

休止に至った理由に対し、新たな展望が見えない限り、再開しません」と書いてあります。この状況では、合併協議の再開は困難だと思

**質問** 具体的政策では、「給食費の無料化を目指します(第3子以降無料化からスタートします)」「高校生世代の入院費の無料化を目指

**質問** 板倉町の町民アンケートでは、住民サービスが低下する場合、合併には反対が7割です。また、板倉町総合計画には「館林市との合併協議は、合併協議が

は、両市町の方針の相違という課題を解消できるか検証しながら、課題が解消できるとなった段階で、住民の意見も把握するなどして、手順を踏んで進めたいと考えています。